

## 社会科（公民的分野）学習指導案

### 1 単元名 「現代社会の見方や考え方」

### 2 単元について

#### （1）学習指導要領での扱いについて

この単元は、中学校学習指導要領の公民的分野の大項目「(1)私たちと現代社会」の中項目「イ 現代社会をとらえる見方や考え方」に基づいて設定・開発したものである。中項目では「現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解させる」ことをねらいとしている。現代社会をとらえる概念的な枠組みの基礎となるものとして挙げているのが、「対立と合意」、「効率と公正」である。「効率」は、「合意される内容が無駄を省く最善のものになっているか」という考え方である。「公正」は、「みんなが参加して決めているか（手続きの公正さ）」や、「機会が不当に制限されたり、不当に不利益を被っていたりする人がいないか（機会や結果の公正さ）」という考え方である。

#### （2）集団における合意形成について

人は必ず何らかの社会集団に属する。そして各個人や集団は、それぞれの価値観をもちながら社会という一つの枠組みの中で生活をしている。それゆえ、集団の構成員の中で、利害関係や価値観の相違による「対立」が生まれる。このような「対立」が生じた場合、多様な人々が社会集団の中で共存できるように、また、できるだけ互いの利益が確保されるように、何らかの決定を行い、「合意」を形成する努力がなされる。その「合意」の妥当性の判断基準が、「効率」と「公正」である。「対立」を解決するためには、「効率・公正」の基準をもとに、話し合いや多数決などの手段を用いて皆ができるだけ納得できるような「合意」を形成していかなければならない。

また、集団の合意形成においては、「できるだけ多くの意見を多面的・多角的な視点で検討し、決定する」という過程が必要である。このために行われるのが「話し合い」である。全員が100%満足できる合意形成をすることは非常に困難であるが、一人一人が少しずつ妥協し合って全体の利益や満足を考え、合意を形成する「全会一致」に向けての努力がなされる。

本単元ではこのような考え方を、全員の合意を得られるのが難しい課題の一例として、部活動における援助費の配分やグラウンドの割り当てという題材を扱うことで理解させたい。

本時の学習では、部活動援助費の配分を取り上げ、特に「公正」という観点を重視し、限られた部活動援助費をどう配分するかという話し合いを行う。そして、各班の配分案を発表して意見交換を行う中で、「何を公正と考えるか」は人によって様々であることを理解させ、合意を形成していく上で「一人一人が集団全体のことを考えること（他者への配慮）」が重要であることに気付かせたい。

また、次の時間では、「効率」という観点を重視し、限られたグラウンドをいかに無駄なく割り振るかという話し合いを行う。そして、話し合いの中で、集団における意思決定のあり方について様々な角度から検討させ、「合意形成にいたる努力の重要性」に気付かせたい。

#### （3）主権者教育との関わりについて

全体の「合意」形成には様々な方法があるが、できるだけ多数の構成員が納得できる合意形成を行う

ためには、よりよい仕組みやルールが必要である。政治とは、集団における意思決定とその仕組みやルール作りである。現代の多くの国家では、多様な価値観を公平に共存させるため、構成員全員に集団の意思決定権が与えられる民主主義が採用されており、日本もその一つである。しかし、民主主義社会における大きな権利の一つである選挙において、投票率の低迷が目立ち、政治に対する関心の低さが問題となっている。これは、社会への参画意識や社会的義務を果たそうとする意識が薄れてきていることの表れだともいえる。もしも、政治に関心がない場合、自分たちの生活に関する様々なことに関して、知らないうちに集団の意思決定が行なわれていることになる。また、各個人が自分に関わりのある課題について正しい判断をするためには、仕組みやルールをよく知る必要がある。それを知らないと、自分たちに関する集団の意思決定がどのように行われているかも分からず、正しい判断ができなくなってしまう。これらの問題の要因として、社会の形成者としての自覚の不足や、自分と社会との関係をとらえられていないこと、政治への無力感などが挙げられる。また、解決すべき課題が複雑で高度になり、人々にとって政治が難しく分かりづらいものになっていることにも原因があるだろう。

このような問題を解決するためには、生徒たちに、社会は自分たちの生活と切り離されたものではなく、自分を取り巻く現実の社会であること、また、社会は自分たちで形成していくものであるということ意識させる必要がある。そのためには、主権者教育の中で、「自分の行動が何かを動かす（何かにつながる・影響する）ことに気付かせ、自信をもたせる」ことが重要である。また、民主主義においては意思決定の権利が構成員にある以上、提示された解決策が最適解と成り得るのかどうかを一人一人が判断しなければならないし、それができるよう努力する必要がある。さもないと、民主主義による政治は衆愚政治となり、機能不全に陥ってしまう。

公民の授業で扱う現代社会の諸課題においては、明確な正解がはっきりしない場合も多い。例えば、本時の学習で扱う「部活動援助費をどう配分するか」という問題もそうである。だからこそ、主権者教育においては、「他者から提示された正解を覚える」という受け身の姿勢ではなく、「明確な根拠をもとに自らの意見をもつ」といった学習態度を身に付けさせることが重要となる。そのための手法の一つとして、本時のような、課題に対する最もふさわしい解決策を考えて決定する「意思決定型」の学習が有効と成り得るのではないだろうか。

また、本単元では、現代社会をとらえる枠組みとして、「効率」「公正」といった視点について学習する。これは、この後に生徒たちが政治や経済、その他現代社会の諸課題について学習を進めていく中で、それらについて考えを深めたり、解決策を考えたりするときの「見方や考え方」の基準となる。例えば部活動援助費という身近な事例について考えることは、「限られた財源をどう配分すればより多くの国民が納得できるのか」という日本が抱える重要な課題について考えることにもつながる。また、自分とは異なる意見をもつ他人との討論を通して、色々な見方や考え方を知り、互いに理解・尊重しつつ自分の考えを深めることは、「選挙で投票する前のプロセス」と共通している。

本単元を今後の公民学習の導入と位置づけて設定し、生徒たちの政治参加への関心を高められるようにしていきたい。

#### (4) 「対話的で深い学び」について

市教研社会科部会では、研究主題を「変貌する未来を切り開く社会科学習～手応えの発見につながる

『深い学び』の探究」としている。主題にせまるためのキーワードとなる「深い学び」を実現させるため、本単元では「他者との対話」、「自分自身との対話」を重視した話し合い活動を取り入れる。その際、「話し合い活動をする事」自体を目的とするのではなく、「話し合い活動の中で思考を深める」ことを目指す。話し合い活動を通して他者の考えに触れ、他者の考えと自分の考えを比較し、思考の変容・考えの更新ができたとき、対話的で深い学びができたと思えることができる。

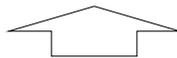
対話的な活動を通して他者と自分とのかかわりを自覚することで、今まで以上に自分を取り巻く社会と自分とのかかわりについても自覚することができるようになる。よりよい社会をつくらうとする公民的資質の基礎を養うことができると考える。

#### 4 単元の構造図

この単元における到達すべき社会認識

合意形成の過程においては、以下の点に十分に留意しなければならない。

- ・「公正」という観点から、個人の満足だけでなく、全体の満足のことを考えること
- ・「効率」という観点から、限りある物に対して無駄のない配分を考えること



上の事実的認識に到達するために必要な社会認識

**A 合意形成を行う努力によって、社会集団は成り立っている。**

- a 人は皆、何らかの社会集団の中で生活している。
- b 地域社会も、大切な社会集団の一つである。
- c 人間は、社会集団の一員として協力していかなければ生きていけない社会的存在である。
- d 人間には個性があり、社会集団の中では対立が生じることがある。
- e 対立が生じた場合は、解決策を求めて話し合い、合意を目指そうとする。

**B 皆が納得できる合意形成を行うためには、状況に応じた「決め方」を選択しなければならない。**

- a 合意形成の手段として、全員の賛同を必要とする「全会一致」という採決方法がある。
- b 合意形成の手段として、賛同者の多い意見を採用する「多数決」という採決方法がある。
- c 採決においては、「できるだけ多くの意見を反映させる」ということが原則である。
- d 「全会一致」という採決方法には、以下のような長所・短所がある。
  - ・長所：全員の意見が反映され、結果に納得できる。
  - ・短所：決定に時間がかかる。
- e 「多数決」という採決方法には、以下のような長所・短所がある。
  - ・長所：一定時間内で決定できる。
  - ・短所：少数意見が反映されにくい。
- f 多数決であっても、他者の人権を侵害するような決定は許されない。

**C 決まり（ルール）を作り、それを守ることで社会集団の秩序が保たれる。**

- a 決まりを作る際には、互いの権利について明らかにしておく必要がある。
- b 決まりを作る際には、どのような義務や責任が生じるかについて明らかにしておく必要がある。
- c 決まりを作るにあたっては、「決め方」（誰がどのような方法で決めるのか）をよく検討する必要がある。
- d 決まりを評価する際は、「公正」や「効率」といった観点から行う。

## 5 単元の指導目標

- (1) 人間は社会的存在であるということに着目し、物事の決定の仕方や決まりの意義について関心をもつ。(学びに向かう力・人間性)
- (2) 身近な事例を通して、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方を踏まえて多面的・多角的に考察し、それを適切に表現することができる。(思考力・判断力・表現力等)
- (3) 決まりの重要性や決まりを守ることの意義、個人の果たすべき責任について、社会の形成者としての立場から理解することができる。(知識・技能等)

## 6 単元の指導計画（4時間扱い）

時	主な学習内容	指導や支援の手立て ◇評価
1	○社会集団と私たち ・身近な社会集団を考え、自分にとってどのような存在か説明する。 ・社会生活における「対立」の存在と「合意」の必要性について理解する。	・身近な事例を通して、社会集団と自分との関わりについて具体的に考えさせる。 ◇自分が複数の社会的集団に所属していることに気づき、人間が社会的存在であることを理解できたか。(ワークシート)
2 本 時	○集団における合意形成① ・グループごとに部活動援助費の配分案を考える。 ・合意形成における注意点について考える。	・各班の考え方の傾向が分かりやすいよう、似た考えをグルーピングする。 ◇話し合い活動を通して、合意形成の注意点について考察し、それを適切に表現できたか。(ワークシート) ◇具体的な事例について、根拠をもって自分の意見を述べることができたか。(観察・ワークシート)
3	○集団における合意形成② ・グループごとに部活動が使用するグラウンドの割り当てを考える。 ・「効率」「公正」の考え方の視点から、考えを深める。	・条件として、「各部ができるだけ効率的にグラウンドを利用できること」、「各部ができるだけ公平にグラウンドを利用できること」を提示し、それを満たすために必要なことは何かを考えさせる。 ◇社会生活上、「対立」が生じることに気づき、社会集団の中で共に成り立つように「合意」形成に至る努力がなされていることを理解できたか。(ワークシート)
4	○決まりについて ～目的と作り方・評価と見直し～ ・さまざまな決定・採決の仕方の長所と短所をまとめる。 ・身近な事例について、問題点を読み取り、的確に分析する。	・多数決でも決めてはいけないことがあることに気付かせる。 ・板書を工夫し、さまざまな決定・採決の仕方の長所と短所のまとめを分かりやすく提示する。 ◇具体的な事例について、資料から問題点を読み取り、要点を書き出すことができたか。(ワークシート)

7 本時の学習計画

(1) 本時の目標

- ①意欲的に授業に参加し、根拠をもって自分の意見を述べるができる。(学びに向かう力・人間性)
- ②話し合い活動を通して、合意形成を進める上での注意点について考えることができる。(思考・判断・表現)

(2) 本時の展開

過程 時配	学習内容と活動	指導上の留意点 (●教師の発問や声掛け)	◆評価 ☆支援の手立て
導入 5分	○3問テストを行う  ○政治における合意形成(国会の予算審議)についてのスライドを見る。	○①「対立」や②「合意」、③「公正」について質問し、予復習が出来ているかの確認をする。  ●「これはどこだろう」「何について話しているのだろう」	☆補足が必要であれば簡単に解説する。
展開	○本時の学習課題を確認する。		
立場や考え方の異なる人々が集まって物事を決める時、どんなことに気を付けることが重要だろうか			
5分	○論題を提示する。  部活動援助費(100万円)を各部活動に配分したい。どのように配分するのが平等だろうか  <b>&lt;個人&gt;</b> ○配分の仕方について考える。 ワークシートに理由を記入する。	○ワークシートを配付する。 ●「配分額①の欄を記入しよう。」  ●「違う立場からも考えてみよう」 ○グループでの話し合いについて説明する。	☆明確な「正解」は無いことを伝え、考えやすい雰囲気を作る。
15分	<b>&lt;グループ活動(ロールプレイ)&gt;</b> ○6つのグループに分かれ、くじ(短冊)で自分の役割を決定する。  ○班ごとに話し合い、配分を考える。班での決定案を作る。  ○話し合いの手順> ① 司会を立てる。(班長) ② 班長から時計回りに、自分の配分案を述べていく。 ③ それぞれの金額の理由を確認し、各部活動の立場から、話し合いによって希望額を調整する。  ○各班の配分案を黒板に掲示する。  <予想される配分案の傾向> ・「実績」重視型 ・「人数比」重視型 ・「同額」型	○班長に短冊の入った封筒と、配分案の記入用紙、ペンを配る。  ●「できるだけ『平等』な配分を意識しよう。」	☆机間指導をし、話し合いの進まない班には助言をする。  ◆根拠をもって自分の意見を述べるができるか。 (評価①) (ワークシート・観察)  ☆各班の考え方の傾向が分かりやすいよう、似た考えをグルーピングする。

15分	<p><b>&lt;シェアリング&gt;</b> ○なぜそのような配分になったのか、班ごとに理由を発表する。</p> <p>○予想される生徒の考え&gt; ・「実績のある部活には、その活躍を評価する意味でも、配分を増やすことが平等。」 ・「人数が多いほど、活動費や選手登録費等がかかるので、人数比で分けるのが平等。」 ・「皆が納得する配分をするのは困難なので、完全に均等に分けるのが平等。」</p> <p>○気になった点があれば質問する。互いの発表を聞いた上で、納得できた考えはメモをする。</p>	<p>○班によって考え方が異なることを認識させる。</p> <p>●「あなたの班は、なぜそのような配分をすることが『平等』だと考えましたか。班長は簡単に説明して下さい。」</p> <p>●「他の班の説明の中で、気になった考えはメモをしよう」</p> <p>○各班から出された意見を板書する。 ○「効率」「公正」の観点から補足解説をする。</p>	<p>☆考えがまとまっていない班に対しては、「班内でどのような意見の対立が生じたか」を尋ねる。</p> <p>◆他の班の発表を、興味を持って聞いているか。(関・意・態) (観察)</p> <p>◆合意形成の上で生じる利害の対立について、多角的な視点から考えることができているか。(思・判・表) (ワークシート・観察)</p>
まとめ10分	<p>○机を元の位置に戻す。</p> <p><b>&lt;個人&gt;</b> ○本時の話し合いを振り返り、学習課題の問いに対する解答を考え、振り返りシートを記入する。</p>	<p>○班での合意形成の過程についても一度個人で考えさせ、まとめとする。</p> <p>●「立場や考え方の異なる人々が集まって物事を決める時、どんなことに気を付けることが重要だろうか。」</p> <p>&lt;補助発問&gt; ・「班で決まった配分額には満足できたか。」 ・「みんなが納得するにはどうすればよいか」</p>	<p>◆話し合い活動を通して、合意形成の注意点について考えることができたか。(思・判・表) (評価②) (ワークシート・観察)</p>
話し合いによって各部の立場や状況をよく理解し、「個人の満足」だけでなく、「全体の満足」を大事にすることが重要である。			

(3) 本時の評価

- ①意欲的に話し合い活動に参加し、根拠をもって自分の意見を述べることができたか。(学びに向かう力)
- ②話し合い活動の中で他者の考えを聞いて考えを深めながら、合意形成を進める上での注意点について考えることができたか。(思考・判断・表現)

## <次時の学習計画>

### (1) 本時の目標

- ①対立から合意に至るまでの課題を整理し、的確な判断ができる。(思考・判断・表現)
- ②社会生活上、「対立」が生じることに気づき、社会集団の中で共に成り立つように「合意」形成に至る努力がなされていることを理解する。(知識・技能)

### (2) 本時の展開

過程 時配	学習内容と活動	指導上の留意点	◆評価 ☆支援の手立て
導 入	○前回の話し合いの内容を振り返る。	○合意のためにはみんなが納得できる解決策が必要であることを確認する。	
展 開	みんなが納得できる解決策を作るために、私たちはどのようなことを考えればよいのだろうか？		
	○本時の課題を理解する。	○教科書26ページの事例について説明する。	
	「部活動のグラウンド割り当て」について、「効率」・「公正」の視点から、みんなが納得できる解決策を考えよう。		
	○「効率」「公正」の考え方について再確認する。  <b>&lt;個人&gt;</b> ○前時に決められた役割の立場で、グラウンドの割り当てを考える。 (※文化部の2人は第3者の立場から考える)  <b>&lt;グループ活動(ロールプレイ)&gt;</b> ○前時と同じ班と役割で、各自意見を述べ合った上で話し合い、グラウンドの割り当てを決める。  ○班ごとにワークシートに理由や経緯をまとめる。  ○どのようなグラウンド割りをしたか、結果図を示しながら、理由とともに発表する。	○「効率」「公正」の考え方について生徒に確認し、必要があれば説明する。  ○あまり時間を取らず、割り当ての方針を考える程度にさせる。  ○班長に結果図とペンを配付する。 ○条件として、「各部ができるだけ効率的にグラウンドを利用できること」、「各部ができるだけ公平にグラウンドを利用できること」を提示し、それを満たすために必要なことは何かを考えさせる。  ○「効率」と「公正」のそれぞれについてどのように考えたのかを述べさせる。	☆机間指導をし、話し合いの進まない班には助言をする。  ◆各部の人数や実績、グラウンドの大きさ、要望などの課題について配慮しながら、的確な判断ができてきているか。(思考・判断) (ワークシート・観察)

<p>&lt;予想される生徒の考え&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各部活動に1日ずつ割り当て、余った場所はじゃんけんで決める。</li> <li>・サッカー部1日、ソフトボール部と陸上部が合同で2日使う。</li> <li>・3日間とも3つの部活で使用し、専有面積は実績や人数比で調整する。</li> </ul>		
<p><b>&lt;シェアリング&gt;</b></p> <p>○他の班の発表を聞いて、どのようなグラウンド割り方がより「効率」と「公正」に配慮されたものかを考え、意見交換をする。</p>	<p>○「より『効率』・『公正』について配慮されていると思う班の考えを選び、理由とともに発表しよう。」</p>	
<p>&lt;予想される考え&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・○班の考えは、グラウンドを上手に無駄なく使っていて「効率」的だ。</li> <li>・△班のように、部員数に応じたグラウンド割りをすることが「公正」だ。</li> <li>・□班のように、実績がないからといって特定の部活動の意見を無視するのは「公正」でない。</li> </ul>		
<p><b>&lt;個人&gt;</b></p> <p>○本時の学習を振り返り、学習課題の問いについて振り返りシートに記入する。</p>	<p>○「話し合いを通じて、みんなが納得できる解決策を作るためには、どのようなことを考えればよいのだろうか」</p>	<p>◆合意形成に至る努力の重要性を理解できているか。 (知識・理解) (ワークシート・観察)</p>
<p>みんなが納得できる解決策を作るためには、「効率」と「公正」の視点をもって「合意」にいたる努力がなされることが大切である。</p>		

(3) 本時の評価

- ①話し合いを通して、対立から合意に至るまでの課題を整理し、的確な判断をすることができたか。(思考・判断・表現)
- ②話し合いを通して、社会生活上、「対立」が生じることに気づき、社会集団の中で共に成り立つように「合意」形成に至る努力がなされていることを、実感を伴って理解できたか。(知識・技能)